みんぱくリポジトリ
国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnolo

オーストロネシア社会の比較研究：オーストラリア国立大学の研究プロジェクトの動向

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2014-03-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 須藤, 健一 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/5180

オーストロネシア社会の比較研究
—— オーストラリア国立大学の研究プロジェクトの動向 ——

須藤健一（国立民族学博物館）

オーストラリア国立大学・太平洋研究所(The Research School of Pacific Studies）では、人類、言語、先史の３学部を中心に「オーストロネシア諸族の比較研究プロジェクト」（Comparative Austronesian Study Project、以下 CAPと略記）を組織し、1988年９月から研究活動を進めてきている。このプロジェクトは、1991年２月までの２か年半にわたり、特定テーマに基づく、セミナー、シンポジウム、国際会議を催し、オーストロネシア社会の連続性と非連続性を明らかにすることを目的としている。筆者は昨年８月から本年４月までの予定で、文部省在外研究費の交付をうけ、太平洋研究所の客員研究員としてCAP プロジェクトに参加している。本誌をかりて、CAP の研究動向について報告してみたい。

１．CAP のねらいと組織

ここ20〜30年のあいだに、社会人類学、人類・先史学、言語学の分野におけるマレー半島、東南アジア島嶼部、太平洋地域さらにはマダガスカルにいたる、オーストロネシア語族社会の調査研究は、飛躍的に進展した。その結果、周知のようにオーストロネシア諸語の再構成や系統、その言語を共通にする人びとの移住経路や年代などについて、言語学と先史学の分野では、大筋で一致する仮説が提唱されてきている。それにくらべ、社会人類学や民族学の分野では、個別社会の調査研究を重視するあまり、他の地域社会をも視野に入れた「比較研究」には強い関心をはらってこなかった。

CAP の代表者、J. J. Foxは、インドネシア研究を例にあげ、研究者の関心は、スマトラ、ジャワ、ボルネオ、スラウェシ、東インドネシアというように地域ごとに分断され、インドネシア全体、ましてやフィリピン、太平洋地域の研究成果に目を向けるものが少ないことを指摘している。このような「地域研究主義」優先の動きを批判的に総括し、これまでに諸地域と諸研究分野で蓄積された豊富なデータをすり合わせて、オーストロネシア社会を一つのまとまりのある実体として把握する研

究方法の必要性を主張している。したがって、CAP のねらいは、近接する地域社会だけでなく、オーストロネシア世界全体の文化と社会の比較研究をとおして、諸社会の歴史的関連性の理解を進展させ、オーストロネシア世界を成りたたせている社会・文化的原理を抽出し、モデルを構築することにある。

CAP は、太平洋研究所の人類学、言語学、先史学と太平洋・東南アジア史学のスタッフを軸に、学部のスタッフを加えて組織されている。研究代表者は、人類学部のJ. J. Foxで、同研究所からは、R. Keesing、M. Youngと学部から J. A. Forge、言語学からは、D. TryonとM. Ross、先史学からは、M. S. SpriggsとP. Bellwood、歴史学からは、D. Scarr、N. Gunson がCAP の中核メンバーとして参加している。CAP には、オーストラリア国立大学のほかに、外国の研究機関も研究協力の形で加わっている。それには、オークランド大学人類学部、ヴィクトリア大学人類学部（以上ニュージーランド）、ハワイ大学人類・言語学部、ワシントン大学人類学部、ミシガン大学人類学部（以上アメリカ合衆国）、レイデン大学（オランダ）、そしてラトローブ大学社会・先史学部、オーストラリア博物館などである。これらの研究機関からは、セミナーや国際会議に研究者が参加するだけでなく、客員研究員として招聘されるスタッフもいる。現在までに、CAP は、長期、短期をあわせ30人の研究者を招聘して、定期的な研究会やテーマごとのセミナーで発表討論を重ねている。

当初、CAP プロジェクトは1987年からスタートする予定であったが、プロジェクトの方法や運営をめぐる意見の調整に時間がかかり、１年半遅れで研究を開始することになった。

２．研究方法

1988年９月に発足したCAP は、４回にわたるワークショップを重ね、第１年度（1989年３月～1990年２月）に議論するテーマを検討し、大きくつぎの４つに絞った。１）Hierarchy/Stratification、２）House/Household 、３）Gender and Relative Age、そして４）Narratives of the Pastである。これらのテーマは、コンビーナーを軸にワークショップで構想がねられ、１日から１週間にわたるセミナーで発表討論された。最初にとりあげられたテーマは、House/Household で、シンガポール大学のR. Waterson とJ. J. Foxがコンビーナーとなって、1989年５月19日と20日の２日間のセミナーで議論された。"House and Household" というタイトルで開かれたこのセミナーでの主要な話題は、１）家の空間的、構造的、象徴的特質と社会環境との相関性、２）社会的カテゴリーとしての家、そして３）社会的集団の

「入れもの」としての家、といった諸相をあきらかにすることであった。

このセミナーには、ニュージーランド、タイ、インドネシア、アメリカなど外国からの参加者を含め40名が出席し、15名が発表した。地域研究のセッションでは、ボルネオ・カリマンタンの4社会（Iban、Gerai、Lahanan、Kenyah）、東インドネシアの2社会（Flores、Timor）、メラネシア、ポリネシアの5つの社会（Malaita、Fiji、Vanuatu、Cook、Maori）がとりあげられた。2部の通文化的部門では、先史学の分野からオーストロネシア社会の家と居住様式の傾向、言語学の分野から「家」の民族語彙の比較、社会人類学の分野では、東南アジア社会の家の空間利用と家屋構造の相関性、東インドネシア社会の「草分け筋」の家の特徴、ニューギニアの儀礼空間にみられるオーストロネシア社会と非オーストロネシア社会の家屋利用の差異といった発表が行われた。

8月7日には、CAP の第2回目のセミナーが“Ethnopoetic”というタイトルで開催された。このセミナーでは、歌詞、祝文、祈禱文などの儀礼言語にみられる表現様式の比較研究を目的としていた。IbanとBerawan（ボルネオ）の神降ろしの呪文、祈禱文の様式、東フローレスの「武勇詩」の分析、Tongaの伝承における力の表現形式、音楽・歌・踊りの結合様式、Cook諸島の伝承にみられる身分階層分化の表現形式、さらには、パプアニューギニアのMassim地域の神話に登場する「悪霊」のイメージについての報告が続いた。

第3回目のセミナーは、“Gender and Relative Age”の題目で11月23日に行なわれた。このセミナーはJ.J. Foxの呼びかけで組織され、兄弟—姉妹関係、とりわけ年長－年少、長子－末子の社会的地位関係に焦点をあて、東インドネシアとオセアニアの両社会の社会構造に特徴的なキョウダイ関係の卓越的様態を比較することを目的としていた。Fox は、基調報告のなかで、東インドネシア社会に共通する草分け筋／分家筋、長男／末子（年長／年少キョウダイ）を指示する民俗語彙が、樹木のメタファー（根元と枝葉）で表現されることを指摘し、このような表現様式がオーストロネシア社会に共通に存在するか否かを比較する必要性を提示した。

東インドネシア地域からは、Tanimbar、Buru、Tana Ai の3社会、オセアニアからはSatawal（Caroline Is.）、Tonga、Sa（S. Pentecost）とパプアニューギニアのMekeo とBanaroの5社会の発表があった。Tanimbar、Tana Ai 社会では、家の本支関係ないし、規定的縁組による家の関係が植物のメタファーで表現されるが、Buruでは相対年齢を指示する名称は存在せず、また、社会関係を植物の名称で表現する様式もないことが明らかにされた。オセアニア社会では、Satawal で出自集団

の分節過程を木の幹と枝で表わす用語が存在するほかは、そのようなメタファーが顕著でないことが判明した。しかし、いずれの社会においても、年長キョウダイが社会的に優位な地位にあり、系譜上の序列と相重なって社会集団の統合の要になっている点で共通することが明らかになった。Fox の提示した社会統合の原理は、東インドネシア、とりわけ、Flores、Timor、Roti、Sumba等の社会で卓越しているが、他のインドネシア社会をはじめオセアニア社会へのその適用は今後の検討課題として残された。（オセアニア社会のSibling の研究は、10数年前に国際会議がもたれ、それに基づいて Siblingship in Oceania, M. Marshall(ed.), 1981 として公にされているのに、その成果をとりこんだ発表が筆者より他になかったのは奇異に感じた。）

3．二つの国際会議

CAP の言語学と人類学部門では、それぞれ1週間にわたる会議を開催した。

言語学部門では、D. Tryonが中心になって1989年8月26日から9月1日にかけて、“Contact-induced Language Change”（言語接触による言語変化）というテーマのもとに国際会議を組織した。この会議で議論された地域は、マレー、インドネシア、フィリピン、ニューギニア、メラネシア、ポリネシア、ミクロネシアと、オーストロネシア語族のほぼ全域をカバーしている。（ただし、マダガスカル、台湾、ミクロネシアのマーシャル、カロリンは除外）。発表者も23人で、各自30分の発表15分の討論という時間配分で議論を展開した（詳細は、プログラムを附表1に掲載したので参照されたい）。

人類学部門の国際会議は、1990年1月25日から30日にかけて、“Hierarchy, Ancestry and Alliance”の題目のもとに開催された。この会議は、J. J. Fox と M. Jolly（Macquarie大学、ANU 客員研究員）によって組織され、30人が発表を行った。発表内容にしたがって、この会議は6つのセッションに分けられた（附表2参照）。発表者は45分の持時間内で、発表と質疑応答を行う形式をとり、総合討論は29・30日の両日、場所を大学から南東海岸の大学セミナーセンターに変え、1泊2日の合宿の形で実施した。

最初のセッションでは、M. Jollyの「ヒエラルキーの概念」についての基調報告に基づいて議論が行われた。彼女は、L. Dumont がインド社会の調査に基づいて定義した、「相対立する要素を包摂する関係」としてのハイエラルキーの概念（Homo Hierarchicus: The Caste System and its Implications, Chicago: Chicago Uni-

versity Press, 1980) をオーストロネシア社会へ適用することの問題点を、彼女のVanuatu とFijiの調査資料を参照しながら指摘した。つまり、インド社会の秩序と統合の根幹をなしている浄－不浄観念に依拠するDumontの概念は、あらゆる社会・文化的コンテクストを支配する原理が欠如するオセアニア社会には有効でないというものである。それにひきつづき、従来、非階層的、平等的社会と位置づけられてきたIbanと Mandaya（フィリピン）社会のハイエラルキーを再考する報告が行われた。Iban社会では、外部社会との関係、とりわけ首狩り、交易、侵略、移住などの局面では、優先権に基づくハイエラルキーが顕在化することが指摘された。

第２部の「先史学からみたハイエラルキー」のセッションでは、居住様式や墓制についての考古学資料と民族誌資料を接合して、P. Bellwood がハイエラルキーの正統性が「始祖中心イデオロギー（founder-focussed ideology)」によって保持されるという仮説を提示した。この仮説は、最初の移住・定着集団が居住地をはじめ農耕、漁撈に最適の土地を占有し、その占有権のもとに後続集団に土地利用権を付与し、優位な地位を確保したというものである。Bellwoodの「大胆」な視点は、民族・考古学やエスノヒストリーの研究の今後の進展によって、オーストロネシア諸族の社会構造の「祖型」を復原する可能性を示唆した点で注目される。

第３部では、政治・宗教的権威や社会的序列を正統化する原理をめぐって議論が展開された。ここでは、東インドネシア、ポリネシア、ミクロネシアとスルー海諸島の調査資料に基づく報告が行われた。J. J. Foxは、Timor, Roti, Floresの６社会をとりあげ、社会関係や出自集団を指示する民俗語彙とそのメタファーを比較したうえで、これらの社会に共通する社会統合の原理が「優先権」（precedence）ないし「草分け筋」（origin line） に根ざしていることを例証した。さらに、その原理は、男／女、年長／年少、長子／末子、内／外、先行／後続、根本／枝葉といったカテゴリーで序列化されていることを明らかにした。Fox の分析および比較の方法は、社会統合の根幹をなしているいくつかの原理を抽出し、それらの原理間のハイエラルキーを把握することによって社会全体の構造を明らかにするもので、縁組か出自かという従来の社会構造論とは異なる視点からの問題提起である。この方法論を東インドネシアだけでなく、オーストロネシア社会に広く適用し、その社会の共通基盤を探ることが、CAP の主要なねらいの一つになっている。

Fox の発表のあと６本の報告が行われた。クック社会では異人／土着、年長／年少、ニューカレドニア社会では、先住／後住、貴族／従臣、年長／年少、本／支などの原理による社会集団の序列化がみられる一方で、対称的縁組や互酬的な社会交

換体系によって、その序列が平等化する傾向があることも指摘された。ミクロネシアの中央カロリン社会では、集団の移住経路が政治的序列に反映され、「ヤップ帝国」に編入される過程で移住伝承が改ざんされ、西／東、首長／平民という関係が形成されたことが明らかにされた。また、東インドネシアのMaluku Tenggara 社会では、「優先性」に基づく政治的序列制度が、現国家体制にくみこまれ、新しい行政組織をつくりあげるうえで、依然として卓越した原理として作用しており、また、非オーストロネシア社会のTobelo社会では、草分け家／後来者、年長／年少といった関係が、社会的、宇宙観的秩序を決定する要素になっている。このセッションでは、東インドネシアの社会と世界観を秩序づける重層的かつ濃密なメタファーが、他のオーストロネシア社会でも、濃淡はあるが共通に存在していることが明らかにされた。

第４部は、規定的縁組とヒエラルキーの整合性と不整合性に関する報告があった。南部スラウェシのGowa社会の報告は、16～17世紀の記録に依拠して、社会階層間の通婚および隣接する諸王国との婚姻関係を統計的に処理した内容であったが、支配（ラジャ）階層は他王国と婚姻関係を結び優位な地位につく傾向があったことを示唆した。東インドネシアからはFloresのTana Ai, Lewotala, Palu'e 島の３社会の報告があったが、Lewotala社会では、母方交差イトコ婚と同時に、特定世代で父方交差イトコ婚を優先するために、集団間の序列関係が中和されることが指摘された。これは「母系の血」を呼び戻すことで家が繁栄するという生命観に根ざす婚姻である。この指摘は、規定的ないし優先的縁組が、社会的ハイエラルキーを維持しない例として注目されよう。

第５部は、ハイエラルキーを指示する語彙と言語行動（敬語）とハイエラルキーの関係をあつかった発表で、敬語についてはJavaとTonga の２社会から言語人類学的視点からの報告が行われた。

最後のセッションは、「ハイエラルキーの再構成と変質」というテーマで８人が発表した。とりあげられた社会は、パプアニューギニアのManus、Massim、Mekeo、それに、Wallis, Tuvalu, Tokelau, Maoriであった。Massim社会の報告では、社会・政治的統率者の民俗語彙とその社会的役割の比較検討から、ビッグマンないし首長として概念化されてきた両者の性質は、相対的なものでしかなく、両者を区別して定義することの意味がないことが指摘された。

また、Mekeo 社会は、西欧人（ミッション）と接触する100 年前まで、「平和首長」、「戦争首長」、「平和妖術師」、「戦争妖術師」の４人のリーダーによって

統合されていた。しかし、戦争の禁止により、戦争首長と妖術師の地位と役割が失せたけれども、それらの社会制度上の枠組は存続し、現国家体制のもとでは、「村巡査」と「（キリスト教の）村司祭」にとって替わられている。この例は、社会秩序を維持する根本原理が４分制構造にあり、この原理が外的影響を受けても変化せずに持続することを示している。ほかのポリネシア社会の報告では、口頭伝承とミッションの記録を手がかりに、植民地前の政治的組織を再構成し、その連続性と非連続性に関する諸要因が明らかにされた。

これら30本の発表に関する総合討論は、エクスカーション（ピクニック）を兼ねて、29・30日の２日間、４時間にわたって行われた。そこでは、「ハイエラルキーの概念」と「オーストロネシア社会の定義」が議論の中心となった。

以上、CAP の研究活動の概略を述べてきたが、筆者が興味をもつ分野とテーマについて偏った報告になってしまったきらいがある点は御許し願いたい。

４．研究成果と今後の予定

CAP は、既述の３回のセミナーと２回の国際会議のほかに、毎週１回の研究会を開いている。研究会は毎金曜日の12時30分から１人の報告者が１時間の発表とそれに基づく討論の形式で運営されてきた。発表内容は、比較の視角を明確にしたものは少なく、個別社会の資料を分析する報告が多くを占めた。これまでに30回弱の研究会がもたれ、その成果の一部は、Comparative Austronesian Project, Working Paperの形で公にされている。これまでに、Metcalf, Peter “That's What I Say: Status and Voice in Indonesian Ritual Languages”, Gibson,Thomas “On Predatory States in Island Southeast Asia”, それにFox, James J. “Hierarchy and Precedence”の３論文が刊行された。

言語学と社会人類学部門の２つの国際会議の成果は、出版社から刊行される予定である。“Hierarchy, Ancestry and Alliance”の会議で発表された論文は、Origins, Ancestry and Alliance とTransformations of Hierarchyというタイトルで、２巻本の形で出版することになり、編集作業を開始している。また、言語学部門の“Contact-Induced Langage Change”の会議の成果も、題は未定であるが、１巻本にまとめて出版することになっている。

なお、CAP の第２年度（1990年３月～1991年２月）の研究計画は、目下検討中で、２月７日には、試みとして“Tales of the Half Person”という題目で、起源神話のモチーフに関するセミナーが開かれた。今年度も10月以降に特定テーマによる国

際会議を予定しているが、その内容、時期については未定である。関心のある方は、今後、下記に照会すれば、詳細な情報が得られる。

Dr. James J Fox, Convenor
Comparative Austronesian Project
Department of Anthropology
Research School of Pacific Studies
Australian National University
GPO Box 4, Canberra, ACT 2601,
Australia

(1990年2月15日記)

附表１－１

THE AUSTRALIAN NATIONAL UNIVERSITY
Department of Linguistics
Research School of Pacific Studies

COMPARATIVE AUSTRONESIAN PROJECT SYMPOSIUM
ON
CONTACT-INDUCED LANGUAGE CHANGE
26th August - 1st September 1989

<u>Saturday 26 August - Seminar Room A Coombs Building</u>

2.00 Symposium Opening

(Chairman: Bert Voorhoeve)

2.15 Paul Geraghty (Fiji Institute of Language & Culture)
" Linguistic Evidence for the Tongan Empire"

3.15 Sander Adelaar (Leiden/A.N.U.)
"The Classification of the Tamanic Languages"

4.15 Adrian Clynes (A.N.U.)
"Javanese Influence on Balinese"

<u>Sunday 27 August - Seminar Room A Coombs Building</u>

(Chairman: Laurie Reid)

9.30 Bert Voorhoeve (Leiden)
"Languages in Contact in the Northern Moluccas"

11.00 Charles Grimes (A.N.U.)
"Special Speech Registers in Austronesian Languages"

(Chairman: Berndt Nothofer)

2.00 Anton Moeliono (University of Indonesia)
"Contact-induced language change in Indonesia"

3.30 Jack Prentice (Leiden)
"Manado Malay"

<u>Monday 28 August - Coombs Lecture Theatre</u>

(Chairman: Anton Moeliono)

9.30 Barbara Grimes (A.N.U.)
"Languages in contact in Central Maluku"

11.00 Berndt Nothofer (Johann W. Goethe University)
"Sumatran Influences in Enggano"

(Chairman: Sander Adelaar)

2.00 Laurie Reid (University of Hawaii)
"Unravelling the Linguistic History of Philippine Negritos"

3.30 Mark Durie (Melbourne University)
"Language Contact and Aceh/Chamic"

附表１－２

<u>Tuesday 29 August - Coombs Lecture Theatre</u>

(Chairman: Shelley Harrison)

9.30 Bill Thurston (McMaster University)
"Renovation and innovation in the languages of northwestern New Britain"

11.00 Malcolm Ross (A.N.U.)
"Areal phonological features in north-central New Ireland"

(Chairman: Ross Clark)

2.00 Shelley Harrison (University of Western Australia)
"Polynesian Influence on Gilbertese: fact and fiction"

3.30 Sue Holzknecht (U.P.N.G.)
"The Mechanisms of Language Change in Labu"

<u>Wednesday 30 August- Coombs Lecture Theatre</u>

(Chairman: Paul Geraghty)

9.30 Bob Bugenhagen (A.N.U.)
"Language Contact on Umboi Island"

11.00 Tom Dutton (A.N.U.)
"Motu - Koiarian contact, Papua New Guinea"

(Chairman: Malcolm Ross)

2.00 Darrell Tryon (A.N.U.)
"Language Contact in the Eastern Outer Islands, Solomon Islands"

3.15 Trip to Australian National Gallery
"Aboriginal Art Exhibition"

<u>Thursday 31 August - Coombs Lecture Theatre</u>

(Chairman: Darrell Tryon)

9.30 Karl Rensch (A.N.U.)
"Early European Influence in the languages of Polynesia"

11.00 Francoise Ozanne-Rivierre (C.N.R.S., Paris)
"Faga-Uvea Lexical Borrowing in Iaai and Phonological Enrichment"

(Chairman: Tom Dutton)

2.00 Jean-Claude Rivierre (C.N.R.S., Paris)
"Indirect Inheritance and the Complexification of Phonological Systems in the Languages of Mainland New Caledonia"

3.30 Ross Clark (Auckland University)
"Mele-Fila and the Efate dialects"

<u>Friday 1 September - Coombs Lecture Theatre</u>

9.30 Synthesis - Workshop Session

2.00 Symposium Closure

附表２－１

THE AUSTRALIAN NATIONAL UNIVERSITY
Comparative Austronesian Project
Research School of Pacific Studies

HIERARCHY, ANCESTRY & ALLIANCE CONFERENCE
25 - 30 January 1990
Seminar Room A, H.C. Coombs Building

Thursday 25 January

What do we mean by Hierarchy?

(Chair: Jim Fox)

9.00 - 9.45 Margaret JOLLY: Hierarchy and encompassment
9.45 - 10.30 Clifford SATHER: Iban egalitarianism reconsidered

10.30 - 11.00 *MORNING TEA*

(Chair: Clifford Sather)

11.00 - 11.45 Nicholas THOMAS: Kingship & hierarchy in the Pacific and Asia
11.45 - 12.30 Aram YENGOYAN: Horizontal and vertical structures of hierarchy: The Mandaya of Southeast Mindanao, Phillipines

12.30 - 2.00 LUNCH

The Prehistory of Hierarchy in Austronesian Societies

(Chair: Bronwen Douglas)

2.00 - 2.45 Peter BELLWOOD: Hierarchy and the earliest Austronesian dispersals
2.45 - 3.30 Dianne TILLOTSON: Patterns in chaos: Evidence relating to ancestry and hierarchy in untidy ancient cemeteries of island Southeast Asia
3.30 - 3.45 I Wayan ARDIKA: Prehistoric hierarchy in Bali

3.45 - 4.15 *AFTERNOON TEA*

(Chair: Margaret Jolly)

4.15 - 5.00 PLENARY DISCUSSION Hierarchy: Anthropological, prehistorical, linguistic approaches

5.15 - 7.15 CONFERENCE DRINKS - OLD CANBERRA HOUSE

Friday 26 January

Origins and Ancestry

(Chair: Antony Hooper)

9.30 - 10.30 Jim FOX: Progenitor lines of origin in some societies in eastern Indonesia

10.30 - 11.00 *MORNING TEA*

(Chair: Douglas Lewis)

11.00 - 11.45 Jukka SIIKALA: The elder and the younger - foreign and autochthonous Origin and hierarchy in the Cook Islands
11.45 - 12.30 Jos PLATENKAMP: The severance of the origin - A ritual of the Tobelo of North Halmahera

12.30 - 2.00 LUNCH

(Chair: Mark Mosko)

2.00 - 2.45 Bronwen DOUGLAS: Hierarchy and reciprocity in New Caledonia: An historical ethnography
2.45 - 3.30 Sandra PANNELL: 'Histories' of diversity, hierarchies of unity: The articulation and legitimation of political authority in Amaya, Maluku Tenggara, Indonesia

3.30 - 4.00 *AFTERNOON TEA*

(Chair: Peter Bellwood)

4.00 - 4.20 Ken-ichi SUDO: Political hierarchy and migration route: Chieftainship in Central Caroline Is. of Micronesia
4.20 - 5.00 Charles FRAKE: The cultural construction of rank, identity and ethnic origins in the Sulu Archipelago

附表2－2

Saturday 27 January

Alliance

(Chair: Aram Yengoyan)

9.00 - 9.45	Douglas LEWIS: Precedence, history, and hierarchy in the social order of Tana'Ai
9.45 - 10.30	David BULBECK: Marital alliance and inheritance of titles in precolonial Gowa (South Sulawesi, Indonesia)
	10.30 - 11.00 *MORNING TEA*
	(Chair: Barbara Lüem)
11.00 - 11.45	Penelope GRAHAM: Alliance against hierarchy: status distinctions in east Florenese marriage practices
11.45 - 12.30	Michael VISCHER: Palu'e hierarchy?

12.30 - 2.00 LUNCH

The Language of Hierarchy

(Chair: Charles Frake)

2.00 - 2.30	Susanne HOLZKNECHT: Birth - order kinship terms in PNG Austronesian societies
2.30 - 3.15	'Okusitino MAHINA & 'Opeti TALIAI: Social hierarchy and language levels in Tonga
	3.15 - 3.45 *AFTERNOON TEA*
	(Chair: Sander Adelaar)
3.45 - 4.30	Adrian CLYNES: Speech styles in Javanese: hierarchy and ancestry in the grammar?

7.30 CONFERENCE DINNER AT VIVALDI RESTAURANT

Sunday 28 January

Historical Reconstructions and Transformations of Hierarchy

(Chair: Jos Platenkamp)

9.00 - 9.45	Ton OTTO: Rank, feasting, fighting and power in precolonial Baluan (Manus, Papua New Guinea)
9.45 - 10.30	Martha MACINTYRE: Too many chiefs? An historical examination of Massim leadership
	10.30 - 11.00 *MORNING TEA*
	(Chair: Jukka Siikala)
11.00 - 11.45	Nancy POLLOCK: Rank, power and colonial interference in Wallis
11.45 - 12.30	Barbara LÜEM: Turtleheads and middleposts: Aspects of dynamics and transformation of hierarchy in Tuvalu

12.30 - 2.00 LUNCH

(Chair: Martha Macintyre)

2.00 - 2.45	Antony HOOPER: Ghosts of hierarchy: I
2.45 - 3.30	Judith HUNTSMAN: Ghosts of hierarchy: II
	3.30 - 4.00 *AFTERNOON TEA*
	(Chair: Judith Huntsman)
4.00 - 4.45	Toon VAN MEIJL: Transformations of leadership and unity among the Tainui Maori
4.45 - 5.30	Mark MOSKO: The sorcerer's appearance: The escalation of 'sorcery' ritual and the authority of chiefs in early North Mekeo contact experience

Monday 29 January
Tuesday 30 January
PLENARY PICNIC AT KIOLOA